

- ★ 幼穂形成期は、早生品種は平年より3日程度早く、コシヒカリは平年並の見込み。追肥の時期に注意！
- ★ 分けつが盛んで葉色はやや濃く推移しています。

1 君津地域の生育概況

4月20日頃に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」の幼穂形成期は平年より2～4日程度早く到達しています。4月20日頃に移植した「コシヒカリ」は6月21日頃に幼穂形成期に到達する見込みです。5月中旬から下旬の高温により、分けつが盛んで葉色がやや濃い状況です。

6月上旬の低温により、生育の進みはやや遅くなりましたが、それでも早生品種は平年に比べ生育が進んでおり、出穂期も早まると予測されますので、穂肥や病害虫防除等の作業が遅れないよう、水稲の生育を確認しながら余裕をもった作業計画を立ててください。

2 生育調査ほの調査結果（6月14日）

品種	年	田植え日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (/株)	茎数 (/m ²)	単葉 葉色	幼穂 形成期 (☆は予測)
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	1	4/16	11.1	55	39.5	640	44.7	6/14
	平年	4/16	11.4	58	—	650	43.4	6/16
	平年比	±0	-0.3	95%	—	98%	103%	-2
ふさこがね (君津市)	1	4/15	11.0	57	40.6	556	42.4	6/13
	平年 (参考)	4/19	10.4	—	—	—	—	6/17
コシヒカリ (君津市)	1	4/28	10.1	54	42.3	664	40.4	6/25☆
	平年 (参考)	4/21	9.8	—	—	—	—	6/23
コシヒカリ (木更津市)	1	5/6	6.3	46	29.7	497	41.9	-
	昨年	5/3	10.2	52	31.7	600	42.3	6/28

※1 平年値は過去10か年（平成21年～30年）平均値。ただし、君津市のほ場は調査ほ場を変更し、過去との生育比較が困難なため、平年値は参考となります。また、木更津市のほ場は26年から調査を始めたため、平年値はなしとなります。

-農業事務所より郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。
電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。
連絡先 宇津木 i.utsg2@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

3 これからの管理のポイント

①いもち病に注意

梅雨時期に入り、いもち病が発生しやすい状況（平均気温20～25℃で曇雨天が続く）が整っています。葉色がやや濃く推移しており、感染を助長する条件も整っているため、注意が必要です。また、いもち病の薬剤には予防効果のある薬剤と治療効果のある薬剤があるため、使い分けが必要になります。常発地では予防防除を検討しましょう。

②冷温障害に注意

早生品種は6月25日頃から冷害危険期を迎えると予測され、この時期に日平均気温20℃以下の低温が持続すると、障害型冷害の危険があります。

そこで、低温の場合は深水管理（幼穂形成期から10日間は10cm、冷害危険期である幼穂形成期の10日後から5日間は20cm）で保温しましょう。

○品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期	冷害危険期予測※	出穂期予測
ふさおとめ	4月20日	6月15日	6月25日頃から	7月10日
ふさこがね	4月20日	6月15日	6月25日頃から	7月10日
コシヒカリ	4月20日	6月21日	7月1日頃から	7月16日
	5月1日	6月27日	7月7日頃から	7月22日

※ 冷害危険期は予測日から5日間。

③「コシヒカリ」の穂肥

「コシヒカリ」は「ふさおとめ」や「ふさこがね」と比べ倒伏しやすいので、穂肥は幼穂形成期の葉色、莖数及び草丈から総合的に診断する必要があります。今年は葉色がやや濃く推移しており、生育量が「多」になりやすいため、慎重に施用しましょう。

幼穂形成期における生育量が適正範囲内であれば、出穂前約18日に当たる幼穂長1cmの時に窒素成分で3kg/10a程度を施用します。下表を参考に生育診断を行い、穂肥を調節します。

○幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥、倒伏軽減剤の要否判定

生育量(群落葉色 ×m ² 当たり莖数の 値)	少 (2,000以下)	適正 (2,000～2,500)	多 (目安として2,500以上)	
	70cm未満		75cm未満	75cm以上
草丈	70cm未満		75cm未満	75cm以上
対策	穂肥の増量、 または時期を 2～3日早める	出穂前18日に 窒素成分で 3kg/10aを施用	穂肥の減量(窒素 成分で1～2kg /10a)、または 時期を遅らせる	穂肥は施用せず 倒伏軽減剤のみ 施用する

※ 群落葉色は、葉色票（富士葉色カラースケール）での葉色値。

④幼穂形成期以降の水管理について

幼穂を確認したら入水していくこととなりますが、代かきの時期と同様に周辺のほ場も水が必要な時期となります。かけ流し等には注意し、限られた水資源を有効に使いましょう。

⑤水稻新品種について

次年度に、県が育成した新品種がデビューします。現在、君津市で試験的に栽培を行っており、8月上旬には現地検討会を開催する予定です。品種の特性等と合わせて次号で詳しく紹介します。

※ 次号は「7月2日頃」発行予定